



道路の写真。ここでは家庭ゴミが捨てられている。

街中ポイ捨て問題

私の任地の課題の一つが、ごみのポイ捨てです。市が管理する土地や公園などは清掃員のおかげでゴミもなく綺麗に保たれているのですが、それ以外の多くの場所では、平然とゴミが捨てられています。市は対策として、公共のゴミ箱やリサイクルボックスを相当な数、市内各所に設置しているのですが、効果はさほどなく、ポイ捨てをする人は絶えません。ゴミは日に日に溜まっていくといっぽうです。

これだけゴミ捨てが多いということは、そもそも市民の多くは、ポイ捨て行為自体を悪いことだと認識していないのかも知れません。

授業の実施に向けて

私は地域の子供達と関わる活動として、学校で授業をやりたいと考えているのですが、先日、その繋ぎ役でもある市の教育委員会の方とようやく打ち合わせを行うことができました。そして来年は市内3校の公立学校で環境教育の授業をさせてもらえることになりました。まだまだ拙いスペイン語しか喋れない上、人生で一度も授業をやった経験はない私ですが、「習うより慣れろ」の気持ちで、まずは思い切ってやってみます。



食用油のリサイクル方法について、職員に説明している様子。

私に出来ること

環境教育のボランティアとして、私は配属先が期待しているような活動はできないと思います。なぜなら、配属先は私にかなり専門性の高いアドバイスを求めているのに対して、私にはその期待に応えられるだけの知識がほとんどないからです。今の私には、3年ほど環境衛生係として働かせてもらった経験があるだけで、それ以外に環境に関しての経験や深い知識があるわけではないです。また、チリは思っていた以上に

環境問題に対し力を入れている印象があり、配属先の職員は、すでにある程度の知識を持っています。そのため、なおさら私が知識という分野で配属先の役に立てるとは思えません。

とはいえ、ここに来ている以上、後悔なくやりきりたいです。なので、知識で役に立てないならば、地道に色々な場所に足を運ぶ。そして一人でも多くの方と繋って、環境問題について伝えていく。それが今、私がとれる最善の選択かなと思います。